

学校だより

9月号（巻頭言）



嶺 鶴

令和6年9月2日
大田区南久が原 2-17-1
電話 (3750)2260
FAX (3750)2280

二百十日が穏やかに過ぎますように

大田区立東調布第三小学校
校長 並木 昭

今年の8月は、近年の猛暑を凌駕する関心事として、地震や台風等に関する多くの報道がなされました。自然災害の脅威に改めて思いを致します。

稲が開花を迎える頃とされる二百十日（9月1日頃）は、昔から農家の厄日として風水害が恐れられてきました。昭和34年（1959年）9月の伊勢湾台風では、完成間もない東京タワーが最大幅で約90cm揺れたのだそうです。翌年の昭和35年（1960年）に、大正12年（1923年）の関東大震災があった9月1日を防災の日とする閣議決定がなされ、今年で制定から64年となります。

学校では、自然災害に対して「正しく恐れる」と「正しく備える」ことの大切さについて、防災教育を中心に指導を行っております。本日実施いたしました「引き渡し訓練（引き取り訓練）」もその一環です。保護者の皆様におかれましては、今後も通学路上の安全に関して気がかりなことがありましたら、学校に御一報をお願いいたします。有事の際のお子様の引き取りにつきまして、引き続き御対応をお願いいたします。

また、この夏休みには第三いきいき活動による学校での宿泊を伴う避難所体験が実施され、日常生活では得られない貴重な機会を御提供いただきました。この場をお借りして、御協力いただいた皆様に深く感謝を申し上げます。

東日本大震災から既に13年が経過しているため、当然ながら児童は3.11を経験していません。防災の日を一つの契機として、ぜひ、ご家庭でも、3.11の「あの日」のことをお子様に伝えていただきたいと思います。

平和と安穏を願う節目の8月が過ぎました。お子様が穏やかで充実した学校生活を楽しめるよう、教職員一同全力を尽くします。2学期も、どうぞよろしくお願い申し上げます。